

今日のキーワード「外国人旅行者」、過去2番目の高水準（日本）

日本を訪れる「外国人旅行者」の数を知るには、日本政府観光局（JNTO）が発表する“訪日外客数”が参考になります。直近2カ月分は、「外国人旅行者」の多い国・地域の推計値が公表され、それ以前の方は法務省統計に基づく暫定値として公表されます。確報値は翌年に公表されます。推計値では世界20カ国・地域、暫定値では世界38カ国・地域からの「外国人旅行者」の数が把握できます。

ポイント1

2月の“訪日外客数”は189万人で36.4%増 年初来累計で昨年同期を110万人以上上回る

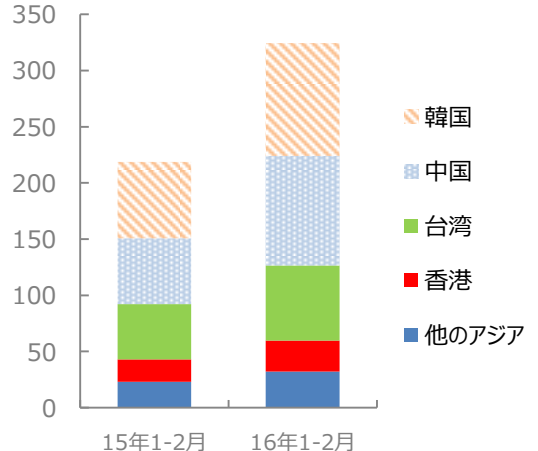
- 日本政府観光局（JNTO）が16日に発表した2月の“訪日外客数”は、前年同月比36.4%増の189万人となりました。2月として過去最高を記録し、単月としても、昨年7月（192万人）に次ぐ過去2番目の高水準となりました。旧正月休暇シーズンである1月、2月を合計した年初来累計は前年同期比43.7%増の374万人となり、前年同期の261万人を110万人以上上回りました。

ポイント2

引き続きアジアがけん引 韓国は年初来累計で早くも100万人突破

- 2月の国別入国者数は20カ国のうちロシアを除いて過去最高の水準となりました。韓国、中国が引き続き高水準で推移する中、ベトナムは1万7,600人で前年同月比85.5%増と高い伸びを記録しました。伸び率が高い国は、マレーシア（同55.2%増）、韓国（同52.6%増）、インドネシア（同48.3%増）、タイ（同39.2%増）、中国（同38.9%増）などで、アジアがけん引役となりました。
- 特に韓国が好調でした。年初からの累計は101万人と中国の97万人を上回り、20カ国の中で最も早く100万人台を記録しました。

(万人)【1-2月の訪日外客数（アジア）】



(注) 他のアジアはタイ、フィリピン、ベトナム、マレーシア、インドネシア、シンガポール、インドの合計。

(出所) JNTOのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開

外部環境は引き続き不透明だが日本の魅力アピールに期待

2月は、1月に引き続きアジア地域の旧正月休暇中という要因に加え、航空路線の拡大などで利便性が高まっていることなどが、「外国人旅行者」の増加につながりました。ただ、世界的な株安や円高の進行、中国景気の減速など外部環境は依然不透明で、「外国人旅行者」の増加傾向に対するマイナスの影響が懸念されます。

こうした中、日本の魅力を拡大する方策も検討されています。今年5月以降は消費税免税制度が拡充される見通しで、地方の商品の販売増が期待されます。また、7月下旬以降は京都迎賓館が通年で一般公開される予定です。日本の魅力を積極的にアピールすることで、「外国人旅行者」の増加が期待されます。

ここも チェック!

2016年 3月 16日 中国は安定成長を目指し「目標」決定（中国）

2016年 3月 10日 「街角景気」、マインドは冷え込む（日本）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。